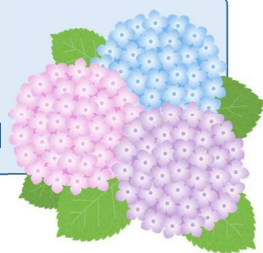


家畜市場通信

R7年7月



畜産においてストレスなどで生産性低下につながる衛生害虫。

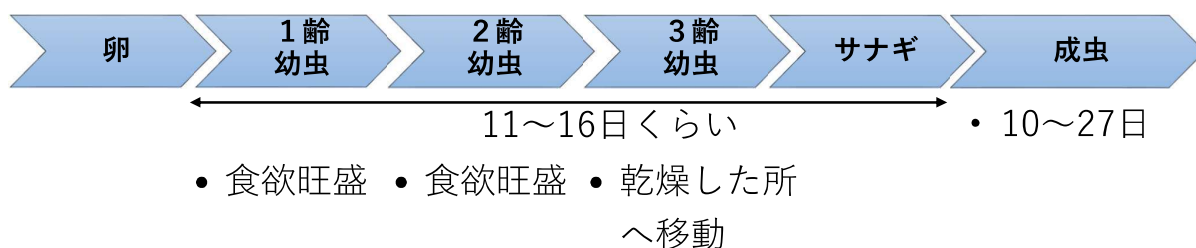
今回はそのうち、吸血等により、牛伝染性リンパ腫（BL）、ランピーズキン病を伝播するサシバエの仲間について紹介します。

主な種類	主な分布	発生	寄生性	活動	吸血	越冬
サシバエ	全国	堆肥、残飼など	吸血時のみ 休息は草むら等	舎飼いに多い	♂ ♀	主に サナギ
ノサシバエ	東北以北 など 高冷地	糞など	昼夜を問わず 牛に寄生	放牧牛に多い		

 岩手県の畜産環境では主にイエバエ、アブ、サシバエおよびノサシバエが混在していると思われます。

 ノサシバエは頭部を地表に向け、腹部を挙げた姿勢で寄生する習性があるので、他のハエと容易に区別できます。

サシバエの生活環



 生息割合は、成虫が2割、卵からサナギまでが8割です。

 卵から成虫になる期間は、気温などの条件で変化します。

 条件が良いと、10日ほどで卵から成虫になります。

 幼虫は湿った場所で生活しますが、3 齢幼虫はサナギになる前に乾燥した場所に移動します。

主なIGR剤（昆虫成長制御剤）の特徴



系統	作用機序	作用	作用期間
シロマジン系	脱皮阻害	食毒	主に 1 齢幼虫～ 2 齢幼虫
ピリプロキシフェン系	蛹化阻害	食毒、接触毒	1 齢幼虫～ 3 齢幼虫

食毒による効果発現には、食欲旺盛な **1～2 齢幼虫期の短期間**に薬剤を食べさせる必要があります。

接触毒は、**1～2 齢幼虫期の接触**に加えて、3 齢幼虫がサナギになるために **移動する途中で接触**しても効果を発揮するので、作用機会が多くなります。

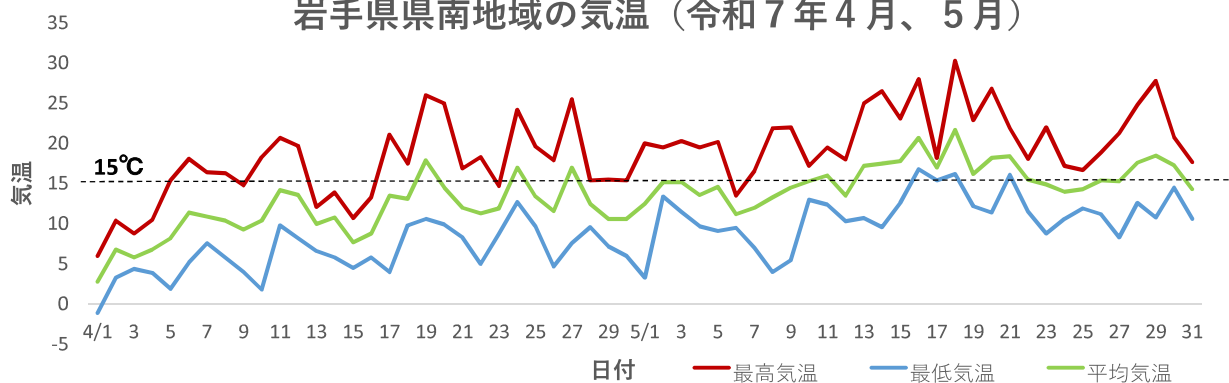
表面が乾燥した堆肥など、粒剤が幼虫のいる底部まで届きにくい場合は、**水に溶かして使用**するなど状況に応じて対応する必要があります。

イエバエ成虫の駆除薬（ベイト剤）は、サシバエが薬剤を好んで食べないため、**効果を期待できません**。

乾いた場所に移動



岩手県県南地域の気温（令和 7 年 4 月、5 月）



春先の積算気温が一定の基準に到達すると、越冬したサナギが羽化すると考えられており、成虫の活動は最低気温が**15℃**を超える時期から急増します。

温暖化により、以前よりサナギが羽化する時期が早まっているので、牛伝染性リンパ腫等の対策として、春先から、IGR剤などの吸血昆虫を意識した対策が必要です。

岩手県中央家畜保健衛生所

〔TEL〕 019-688-4111

〔FAX〕 019-688-4012

岩手県県南家畜保健衛生所

〔TEL〕 0197-23-3531

〔FAX〕 0197-23-3593

岩手県県北家畜保健衛生所

〔TEL〕 0195-49-3006

〔FAX〕 0195-49-3008